



平成 28 年 7 月 1 日
秋草学園高等学校 図書館

今年の夏も先生方から、みなさんにたくさんのおすすめ本を紹介していただきました。先生方のご協力のおかげで様々なジャンルの本が並び、みなさんの読書の幅が広がる予感がする「2016夏が好き！本が好き！」が完成しました。紹介文からは先生方の本への思いが伝わってきます。興味を惹かれた本は手に取って読んでみてください。1冊をじっくり読んでみるもよし、何冊も欲張って読んでみるもよし、先生方のおすすめ本を片手に夏休みを充実させてください。そして、読み終わった際には、その本を紹介して下さった先生と楽しく語らいのひとときを過ごしてほしいなと思います。また、本日より夏の長期貸出を始めます！冊数は**5冊まで**、返却日は**9月2日（金）**です。長期貸出を有効に活用して、いつも以上に読書を楽しんでください。

小久保校長先生のおすすめは…

①141-ゼ 『クリティカルシンキング入門編』 E.B.ゼックミスタ/J.E.ジョンソン 著 北大路書房

この本はアメリカの心理学者 E.B.ゼックミスタ、J.E.ジョンソンによる『クリティカルシンキング』の翻訳本です。この本は「ものの考え方」を系統的に学習するための本です。従来「クリティカル」という英語には一般に「批判的」という日本語が与えられてきましたが、本書では批判的思考を意味するのではなく、一つの思考の技術として、人間が陥りやすい思考の落とし穴や先入観による影響を十分に自覚した上で、そこから脱却し、物事を冷静に、客観的に、論理的に考え、判断していくための「クリティカルシンキング」の入門編です。思考力を鍛える大切さをこの本で学んでいきましょう。

②141-オ 『考える力』 大庭コテイさち子 著 偕成社

これからの時代を生きる皆さんにとって、思考力・判断力・表現力をつけることは重要です。それにはまず論理的に考えることが必要です。この本は「考える図」を使って、ロジカルシンキングを身につけていきます。人と良好な関係を結ぶには、正確に自分の考えを相手に伝えることが大切です。この本で紹介されている「発想の図」「順番の図」「比較の図」「原因と結果の図」「まとめの図」を学びながら、ロジカルシンキングの基礎を学びましょう。

中村教頭先生のおすすめは…

B913.6-ワ 『花埋み』 渡辺 淳一 著 新潮社

本校の図書館で貸出し可能な本です。
先日、とあることから埼玉県出身（現在の熊谷市）のかがやく女性の特集を目にすることがありました。日本最初の女医、萩野吟子さんの話です。彼女は勉強が好きでしたが、学問好きの娘は家門の恥という風潮の根強かった明治初期、それはそれは遠くけわしい医学の道を目指した女性でした。

彼女の医者になるという動機は、夫からうつされた業病を異性に診察される屈辱を味わったことに始まります。同じ苦しみにあえぐ女性を救うべく、さまざまな偏見と障害を乗り越えて、医師の資格を得るために必死に生きました。その波乱万丈の生涯を綴った長編小説です。この夏これを読むと心がすっきりしますよ。

浅見先生のおすすめは…

① 『日米ポディトーク』 東山安子/ローラ・フォード 著 三省堂

これって辞書ですけど、身振り、手振り、で相手の表情をうかがえるかも？

② 『江戸の街道を歩く』 黒田 涼 著 祥伝社

今年の夏休み、プチ小旅行を計画中又悩んでいる人にお薦めです！！

③ 『結局、「すぐやる人」がすべてを手に入る』 藤田 達蔵 著 青春出版社

部活動や成績で、今一歩伸び悩んでいる人へお薦めです！！

安達大樹先生のおすすめは…

B913.6-ア 『熱球』 重松 清 著 新潮社

甲子園に憧れていた。決して強いとは言えない地元の高校だったが、予選を勝ち進み、見事に決勝戦まで進んだ洋司たち。あと1つ勝てば甲子園。でも、決勝前夜、彼らの夢は断ち切られた。20年後、38歳になった洋司は、一人娘を連れて故郷に帰ってきた。再会した仲間と共に、「20年前の悲劇」と立ち向かう。-僕ももう一度、マウンドに立てるだろうか-。止まっていた時計が動き出す、ハートに火がつく人生の再出発を描くストーリーです。

偶然何かで立ち止まってしまった時、この本を読んでみてください。



伊藤先生のおすすめは…

498-ア 『不食という生き方』 秋山 佳胤 || 著 幻冬舎

不食、つまり食べ物を食べないで生きている人が世界に何万人もいる——と著者はいいます。これはダイエットや健康法の本ではありません。私たちが信じきっている「常識」の枠をそっとはずしてくれるような本です。「あらずわない、裁かない」生き方を知ることができます。

稲本先生のおすすめは…

913.6-ア 『一路』 浅田 次郎 || 著 中央公論新社

生きる時代は違っていても、物事にまっすぐに、誠実に立ち向かう姿は同じなんだとあらためて思います。自分もそうありたいし、また、そういう姿をきちんと見ていてくれる人がいるはず…と信じた気持ちでいっぱいになる作品です。



今井先生のおすすめは…

①『サードマン 奇跡の生還へ導く人』

人間の「脳」と「心」は不思議。脳が支配する感情や心は何気ない一言で簡単に傷つく。その反面、鋼（はがね）のように強くなり私達の命を守る。

人間の脳は極限状態に陥ると第三者、サードマンを作りだし私達を守ったり救ったりしてくれる。不可能に近い危機に直面した人達が奇跡の生還を遂げた体験をもとにサードマンの真相に迫る。

②『天才』 石原 慎太郎 || 著 幻冬舎

かつて田中角栄という総理大臣がいた。家が貧しくあまり学歴は高くなかったが、コンピューター付ブルドーザーと呼ばれ頭の回転の速さ、巧みな話術、行動力とどれをとっても超一流。人間力で総理大臣への道を駆け上がった。

当時の大蔵省の役人を相手に（当時の大蔵省は東大出のエリートの集まり）一歩も引かなかった。「私が田中角栄だ。小学校高等科卒業である。諸君は日本中の秀才代表であり、財政金融の専門家ぞろいだ。私は素人だが、トゲの多い門松をたくさんくぐってきて、いささか仕事のコツを知っている。……一緒に仕事をするには互いによく知り合うことが大切だ。われと思わん者は誰でも遠慮なく大臣室にきてほしい。何でも言ってくれ。上司の許可を得る必要はない。……できることはやる。できないことはやらない。しかし、すべての責任はこの田中角栄が背負う。以上。」（44歳で大蔵大臣に就任したときの就任挨拶より）

最後は「金権政治」で政界を追われ、いろいろと問題の多い政治家でもあったが、人間的な魅力がこの本で感じて欲しい。

今關先生のおすすめは…

B913.6-シ 『小袖日記』 柴田 よしき || 著 文藝春秋

タイムスリップして平安時代へ…！

紫式部に仕える女房として平安ライフを送りながら、「源氏物語」のネタ探しをすることに。「源氏物語」は無事に完成するのか？小袖は無事に現代に戻ってくることができるのか！？「『源氏物語』なんて難しそう。」とと思っているそのあなた！ぜひ読んでみてください。

小笠原先生のおすすめは…

159-ヒ 『3秒でハッピーになる名言セラピー』 ひすい こたろう || 著 ディスカバー・トゥエンティワン

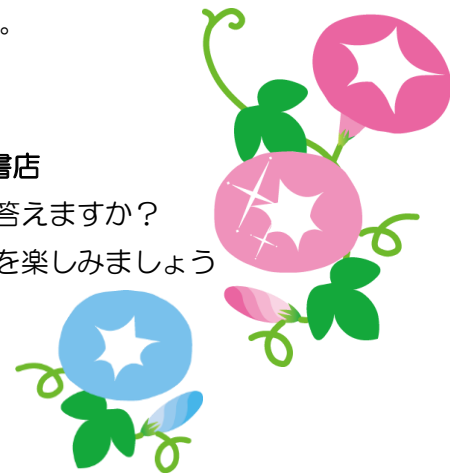
「3秒で人生が変わる！」…と聞いたら、あなたは信じますか？この本に出会ったのは中学生のときでした。名言を集めたような本は沢山ありますが、こんなに言葉が面白くて深く心に残るものは初めてだ！と衝撃を受けました。コピーライターが書いただけあり、とても読みやすいです。考え方や感じ方をちょっと変えるだけで人生は何倍も楽しくなると思います。悩み事があるとき、壁にぶつかったとき、疲れちゃったとき、少し気分転換にこの本を読んでみては如何でしょうか？きっとすっきりしますよ！（もちろん、元気なときでも！笑）

シリーズで3冊あるので、是非、全て読んでみてください。

鹿島先生のおすすめは…

801-ス 『日本語と外国語』 鈴木 孝夫 || 著 岩波書店

「リンゴは何色ですか？」と質問されたら、あなたは何色と答えますか？実は国によって答えが様々です。この本を読んで文化の違いを楽しみましょう



鈴木信滉先生のおすすめ本は…

①913.6-ア『何者』 朝井 リョウ || 著 新潮社

就活を題材にした直木賞受賞作。

SNS や面接、エントリーシートで見せる自分は果たして本当の自分なのか。就活対策で集まった5人の男女の関係性が、就活によって明らかになっていく。人間のいちばん汚い感情、あなたはどの読み取りますか？

②913.6-ア 『雨の降る日は学校に行かない』 相沢 沙呼 || 著 集英社

学校に溶け込めない6人の中学生の揺れ動く心を綴った作品。

「どうして学校に行かないといけないの？」、「どうして友だちと仲良くしないといけないの？」そんな中学生のリアルな生き様に共感できる人も多いはず。

迫先生のおすすめは…

914.6-マ 『袖のボタン』 丸谷 オー || 著 朝日新聞出版社

「お前に一言物申す」とは某体当たり系お笑い芸人お得意のギャグだけれども、彼でなくとも例えば最近の若者に、若者なら最近の大人に、あるいは社会に、運命に一言申し上げたい、という人は世の中に存外多いものです。皆さんもきつつけば不平不満の一つ二つは出てくるでしょうし、実際 Web 上にはそんな一方的な喧嘩が溢れかえっている訳ですが、内容の正しさはさておき、なんだか殺伐として、読んでいてあまり心地のよいものではないことが多い印象です(最近話題になっていた記事のタイトルは「保育園落ちた、日本死ね」。すごい)。

ところがここに、読んで全く不快感のない、むしろ爽やかな心地にさえなる「気の利いた物の申し方」の見本帳のような本があります。けっしてお説教じみた固い読み物ではありません。各段 2~3 ページの短いエッセー形式で、おそろしく幅広い話題について終始おだやかに、またユーモラスな語り口で読む人を楽しませてくれます。スラスラ読めて、気付くと筆者の着眼、考え方になるほどと納得し、自然と自分の身の振り方を反省してしまう。そして最後は前向きな気持ちになる。こういう文章には、なかなかお目にかかれないのではないかと思います。読むだけで綺麗な日本語と柔軟な発想が養われる(気がする)と言う点でもおすすめ。筆者のこだわりで仮名遣いが旧式なため、はじめとつづきににくいかもしれませんが、しばらく読めば慣れてきて、逆にクセになってきます。タイトルの意味は…是非読んで確かめてみてください。

高橋貴与人先生のおすすめ本は…

289.1-二 『dreamtime—負けたら終わりじゃない、やめたら終わりだ』

西谷昇二 || 著 PHP 研究所

私が大学受験の浪人の予備校時代に、最も影響を受けた英語の先生が書かれた本です。人間の「弱さ」をテーマに、弱さを受けとめて、それを「力」に変えて生きていこうと述べています。

高橋舞先生のおすすめ本は…

913.6-ミ 『舟を編む』 三浦 しをん || 著 光文社

玄武書房という出版社の辞書編集部を舞台に、新しい辞書作りに取り組む人たちの姿を描いたお話です。

読み終わった後には言葉や人が愛おしく思えて、心が温まるような本です。そしてこの本も愛おしく思えてきます。是非読んでみてください！！

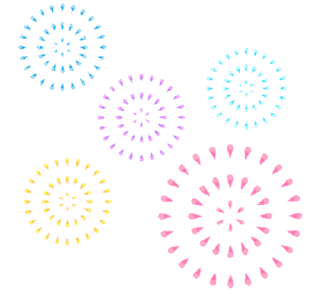


杼原先生のおすすめは…

913.6-ヒ 『幸福な生活』 百田 尚樹 || 著 祥伝社

よくありそうな話かと思いきや、最後には衝撃のラストが待ち受けています！最後のページをめくったとき、どきっとすること間違いなし。

19の短編から構成されていて、あっという間に読み終わってしまう作品でした。是非読んでみてください。



利根川先生のおすすめは…

①913.6-モ 『宇宙のみなしご』 森 絵都 || 著 角川書店

②『花のワルツ』 川端 康成 || 著 新潮社 (※絶版)

③914.6-コ 『考えるヒント』 小林 秀雄 || 著 文藝春秋

今回のおすすめは、最近よかった小説と自身の高校時代をひもといってみました。

①はここ1年の中で感銘を受けた小説です。この作家は心理描写を精緻にしてはいませんがさりげなく核心のようなものに触れているように感じます。気になる作家です。どれを読んでも心に留まります。

②、③は高校時代に背伸びして読みました。②は女心に触れた作品が多いです(短編集)。③は、中原中也が好きだったのでそれをきっかけに読みました。4冊あるのですが1と4を読みました。もちろん飛ばし飛ばし、興味のある部分だけね。

そうそう、大学生の頃「文学ト云フ事」という小説を30分で2作品紹介するという番組があったのです。映画の試写みたいな感じで。深夜番組だったけど、面白くて欠かさず見ていた記憶があります。最近 youtube にアップされているので、是非みてください。ここに出た作品はほぼ読みました。

長野先生のおすすめは…

913.6-ミ 『羊と鋼の森』 宮下奈都 || 著 文藝春秋

今年の「本屋大賞」を受賞した作品です。ピアノの調律師の青年と、羊と、ふたごの物語です。『よろこびの歌』も『終わらない歌』もよかったけれど、これもよかった。「また見つけたよ」という感じで読めると思います。

橋本先生のおすすめは…

159-ゴ 『あっ！命の授業』 ゴルゴ松本 廣済堂出版

『あっ！命の授業』という本は、漢字の本です。普段は意識していない漢字にも、素敵な意味があるということが分かります。日本語のすばらしさ、漢字のすごさが伝わります。とても、奥が深い本です。興味のある人はぜひ読んでみて下さい！！

福島先生のおすすめは…

376-オ 『幼児期一子どもは世界をどうつかむか』 岡本 夏木 || 著 岩波書店

幼保系学部や学科を目指す人の中には、この本を既に読んだことのある人も多いと思いますが、保育士や幼稚園教諭などを目指す人たちだけではなく多くの方にご紹介できる本だと思います。将来子どもを産み育て「保護者として子どもたちとどう向き合うべきか?」「この社会の矛盾を子どもの目線でとらえることの重要性」など考えさせられる本です。「しつけ」「遊び」「表現」「ことば」の4分野にわたって、幼児の中でどんなことが起きているのか、それに対して保護者や保育者はどのようなかわりが出てくるかなど分かりやすく書かれています。

幼児は自分にとって関わりの深い人（保育者・保護者）と確認し、その人との関わりに深く影響されます。現代の社会では、普通の愛情すら感じ取ることのできない環境におかれている子どもたちのニュースが見られます。そうした社会の問題にも着目させられる書籍です。是非読んで見てください。

本多先生のおすすめは…

913.6-イ 『孔子』 井上 靖 || 著 新潮社

約2500年前、中国の乱世に生きた孔子の人間像を描いた歴史小説です。「論語」に収められた孔子のことばはどのような背景を持って生まれてきたのか、また何を目的としていたのかがよく理解できます。現代にも通じる孔子の思想に、ちょっと夏休みに触れてみてはいかがでしょうか。

丸山先生のおすすめは…

186-ヤ 『御朱印ブック』 八木 透 || 著 日本文芸社

最近歴史ブームで「歴女(れきじょ)」・「古墳ガール」と呼ばれる女性が増えています。あなたは歴女それとも古墳ガール? 近年のパワースポットブームで神社仏閣を訪れる女子が増えて、そこで出会った『御朱印帳』。おしゃれな女子のハートをガッチリ掴んで、「御朱印ガール」や「御朱印女子」が増えています。でも『御朱印帳』ってなに? 知らないという人に『御朱印ブック』をおすすめします。寺社をお参りしたあかし(証明)として「御朱印」を頂くのです。一回200~300円くらいです。おみくじもいいけれど、「御朱印」もいいですよ。旅先でちょっと気軽に書いてもらって、思い出にもなるとっても便利な『御朱印帳』。お寺の場合にはお堂やご本尊などが記されます。デザインもいろいろあって楽しめます。

*古墳ブームの火付け役 まりこふん著『古墳の歩き方』(扶桑社)や『まりこふんの古墳ブック』(山と溪谷社)も楽しめますよ。おすすめです。



松永先生のおすすめは…

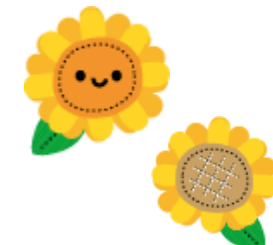
①289.1-オ 『だから、あなたも生きぬいて』 大平 光代 || 著 講談社

②913.6-ツ 『ツナグ』 辻村 深月 || 著 新潮社

③913.6-ハ 『小説 星守る犬』 原田 マハ || 著 村上 たかし || 原作 双葉社

④913.6-ミ 『風が強く吹いている』 三浦しをん || 著 新潮社

⑤933-ク 『いまを生きる』 N.H.クラインバウム || 著 新潮社



三ツ木先生のおすすめは…

913.6-ミ 『羊と鋼の森』 宮下 奈都 || 著 文藝春秋

「もしかしたらこの道で間違っていないのかもしれない。時間がかかっても、まわり道になっても、この道を行けばいい。何もなかった森で、なんでもなかった風景の中に、すべてがあったのだと思う。隠されていたのでさえなく、ただ見つけられなかっただけ。」(本文抜粋)

迷いもがきながらも誠実に生きていけば、目の前が開ける瞬間がくるのかも…と励まされる一冊でした。

山崎先生のおすすめは…

159-ト 『ますますキレイになる人、どんどんブサイクになる人』 豊川 月乃 || 著 大和書房

女子力が高い女性は内側からにじみ出る何かがあります。

読むだけでキレイになれます。

結城先生のおすすめは…

①915-タ 『完全現代語訳 樋口一葉日記』 高橋 和彦 || 著 アドレー

五千円札の人でお馴染みの樋口一葉は、お父さまが亡くなったことで17歳にして家計を支えることに。駄菓子屋やいろいろな商売に手を出してみるものの上手くいかず、文学(原稿料)で身を立てようと、凄まじい勢いで(何しろ切羽詰まっているから)小説を書きます。日記には、そんな彼女のサバイバル生活が人間関係の悩みや恋バナなどとともに、生々しく、多少愚痴っぽく、綴られています。彼女すごく筆まめです。ある日の日記。「二日。早朝、安達の奥様より、かねての借金の返済催促の手紙が来る。借金は五円ほどだが、今は手もとに一銭もない。どうしよう。…世の中はいつも変わるものなのに、変わらないのは私の貧乏と彼の裕福だけ。…夜…四円五十銭借りてくる。早く寝る。」

余談ですが、本書は僕の亡き父がライフワークとして出版したものです。少々専門的ですが、とてもいい本です。明治の今日は何があったのかな、と楽しむこともできます。よろしければ、多くの人の手にとっていただくと嬉しい、というのが本音です。

No.5

『Harry Potter and the Cursed Child』（ハリー・ポッターと呪いの子）が上演。そして7月中にそのシナリオ（英語版）も出版されます。そして11月には、ハリーがホグワーツで学んだ教科書『幻の動物とその生息地』の執筆者を主人公とする映画『ファンタスティック・ビーストと魔法使いの旅』が上映されます。なんだか、わくわくしませんか。過去にハリー・ポッターを読んだことのある人も、読もうとしたけれど挫折した人も、映画を見たから読もうと思ったことのない人も、まずは『ハリー・ポッターと賢者の石』を手にとって、これからも広がり続ける魔法界の、その物語の始まりからおさらいしておきましょう。きっと、新しいハリー・ポッターの世界をより一層楽しめるはずようになるです。

今井司書のおすすめは…

①913.6-モ 『エミリの小さな包丁』 森沢 明夫 || 著 角川書店

食べることが大好きな私はよく“おいしそうな本”を読みます。この本もその中の1冊。夏バテぎみでも食欲が湧いてくるような海の幸を使った料理がたくさん登場します。

何もかもが上手くいかなかった主人公エミリが田舎の漁師町に暮らすおじいちゃんの元へ身を寄せることになったのは梅雨の明けた7月のこと。15年ぶりの再会でお互いちょうどいい距離感がつかめず、どこがぎこちない主人公エミリとおじいちゃんですが、料理を通じて心を寄せ合っていきます。カサゴの味噌汁、さんが焼き、アジの水なます、サワラのマーマレード焼き、おじいちゃんの作る料理はどれも本当においしそう！その味を想像しつつ、また、物語の端々に響く風鈴の音色を味わいながら読んでみてください。

②291-ウ 『「うましうるわし奈良」の10年』 ウエッジ || 編 ウエッジ

「そうだ京都行こう」のCMを見て、京都に行きたくなる人は結構いるんじゃないかなと思いますが、同じく「うましうるわし奈良」のCMをみなさんは知っているでしょうか。こちらもとても魅力的で「奈良が呼んでいる！」と気分が盛り上がります。その書籍版です。奈良というと、法隆寺や東大寺以外にも、唐招提寺（千手観音像が素敵！）、新薬師寺（十二神将がかっこいい！）、中宮寺（菩薩半跏像に癒される！）、興福寺（イケメン阿修羅くんがいる！）など、個人的に好きな場所が色々ありますが、奈良のさらなる魅力を発見することができる1冊です。この本で日本の古都 奈良の美しさをみなさんにも知ってほしいです。



結城先生のおすすめは…

②911.3 『カキフライが無いなら来なかった』 せきしろ・又吉直樹 || 著 幻冬舎

911.3 『まさかジープで来るとは』 せきしろ・又吉直樹 || 著 幻冬舎

「漬れてた日本一上手い店という看板を残して」

「チリ産鮭切り身圧倒的な色」

「手を振るには早すぎた」

「フタをしない主義なのか」

ここまでで気になった人はきっとハマります。日常の気にもとめないヒトコマ、切り取ってよくみれば、なんだか切なく、妙に可笑しかったり。そんな五百以上の、妄想力呼び起こす、あるある自由律俳句が収録されています。寝苦しい晩にでも読んでみてはいかがでしょう。

湯本先生のおすすめは…

913.6-ダ 『DIVE!!』 森 絵都 || 著 講談社

何かに一途に取り組むことのカッコよさを改めて教えてくれる本です。1回限りのお付き合いになる本も多いなかで、これは何度か読み返しています。何かに一生懸命になれる、皆さんの年代に是非一度手にとってみてほしい1冊です。

鈴木司書のおすすめは…

①626-ク 『畑仕事の十二ヵ月』 久保田 豊和 || 著 家の光協会

著者によると、高校生ぐらいで畑仕事を楽しむ人は珍しいそうです。なぜなら、人類の発達史の流れに置き換えれば高校生は狩猟期で、ありあまるパワーが畑仕事では使いきれないからだそうです。けれど、畑仕事のコツには、先人が培ってきた知恵と知識が凝縮されています。今はやりのスローライフだって、江戸時代の農作では当たり前前の感覚です。そう思うと、ちょっと詳しく知りたくありませんか。例えば月の満ち欠け。農作業やそれに関わる年中行事を記した“農事暦”は、太陰暦をもとにしているので新月から次の新月までが1ヵ月です。そして月の前半新月から満月の期間は葉や根が成長し、月の後半満月から次の新月までは花が咲いたり実がなったりが盛んになるそうです。だから種まきは新月の頃がベスト。ちょっとした知識だけど、月を眺めるのが楽しくなりませんか。他にも医療や保育との関係や行事との関わりなど、あなたの生活を豊かにする知識がここにあります。

②933-ロ 『ハリー・ポッターと賢者の石』 J.K.ローリング || 著 静山社

この夏は、もう一度ハリー・ポッターシリーズを読み返しませんか。ハリー・ポッター効果でUSJは大盛況らしいですが、今年はそれだけではないのです。7月にはロンドンの舞台で新作